

麻生多摩美の森だより

麻生区市民健康の森 麻生鳥のさえずり公園

第 32 号 2011 年 3 月 31 日発行 発行 ; 麻生多摩美の森の会
発行責任者 ; 間野 洋 編集者 ; 木村 信夫

平成 22 年度の活動を顧みて

会長 間野 洋

当会の活動目的は緑の回復と保全、創成を通して里山の景観を守り、近隣の方々の憩いの場としての森づくりを進め、またこれを通して地域コミュニティの構築を図り、次世代に引き継ぐというものです。この目的に沿って 1 年間の活動を終了しました。総活動日数は 99 日となり、昨年を 7 日上回りました。

今年度を振り返ってみると、まず、5 月 23 日に第 61 回全国植樹祭が神奈川県で開催されました。これに先立ち、川崎市でも県知事、市長出席のもと、植樹祭が開催されました。ここで第 6 回わがまち花と緑のコンクールが開かれ、当会は緑地部門で「緑地パートナーシップ賞」を受賞しました。

10 月と 12 月には、東京大学農学部緑地創成研究室の学生 2 名(大学院生と 4 年生)が「里山の管理」および「公園における市民活動の発展」という研究テーマで当森に来訪。後者は 7 区の市民健康の森を対象とした研究で、各区の活動内容、問題点等が記されていると思います。

1 月 29 日には麻生区役所、里山フォーラム in 麻生主催の「里地里山ナチュラル入門講座」第 10 回が当地で開催。約 30 人の受講者は「多摩美地区の緑と公園」のテーマで、こもれびの会、麻生多摩美の森の会、多摩美みどりの会、川崎・多摩美の山トラストの会のエリアを歩き、活動内容等の説明を受けました。その後、多摩美町会館にて元緑政部市民健康の森担当の萩原哲氏が講演、当会

からは写真で 10 年の活動を紹介しました。

イベント関係では、第 10 回の記念すべき植樹祭&収穫祭が 11 月に行われ(詳細は 31 号)、第 1 回と同様の 250 名の参加で、磯野麻生区長の祝辞もいただき盛大でした。

西生田小学校の総合学習への協力については、例年通り 3 年生と 5 年生で、延べ 5 日間の開催でしたが、諸般の事情により来年度は縮小の方向になりそうです。

星空の観測会は夏と冬の 2 回開催。夏ときには、トラストの会主催の影絵が同時に行われ、70 名の参加者で賑わいました。

プレーパークは 6 回の開催。森で自由奔放に遊ぶ子どもたちを見ると心が癒されます。

分科会活動の森づくりでは、手入れが行き届かなかったクリの木の剪定を行い、また懸案であった森の中の枯れ木を調査し(31 本)、3 月末に 10 本を伐採しました。来年度の森の管理の重点は、枯れ木処理となりそうです。

畑の管理については、作付けは昨年と同様でしたが、来年度は、総合学習への協力の縮小で、作付けは相当変わってくるでしょう。

施設・工作では、藤棚下の椅子 4 脚を棟梁友部常松氏の協力で新しく取り替えました。

広報では、ホームページの開設が遅れています。来年度の早期に開設すべく努力します。

最後になりましたが、行政関係機関、近隣町会のご指導、ご支援、また会員の皆様のご協力に心から御礼申し上げます。来年度もどうぞ宜しくお願いいたします。

西生田小5年生「森で環境学習」実施される 副会長 中谷 一郎

西生田小学校5年生160名の環境体験学習が、麻生区市民健康の森で、12月20日(月)、21日(火)、いずれも午前にも実施されました。当初は13日(月)、14日(火)の予定でしたが、2日とも雨で延期され、上記日程となりました。

1日目は2クラス80名、2日目も2クラス80名の2回に分けて実施しました。

学習内容は、1環境と緑について、2落ち葉掻きと堆肥作り、3森の観察、4樹木の二酸化炭素吸着量測定の4項目で、当会の会員約10名が指導に当たりました。

1. 環境と緑についての講話 間野会長 (20分)

森林の働きについて、地球上の海と陸地の割合、世界各国と日本の森林割合など、質問形式で進めました。日本の森は7割だとの回答には分かり顔の児童も、森林は土砂の流失を防ぎ、水を溜め、生活用水等の確保には川の周辺に良く茂った森林が必要なことなど、新鮮に学んだようです。

「日本で一番おいしい水道水は北海道？長野？いや正解は阿蘇山の伏流水を使っている熊本市です」に、ホオーッ。こうしたことは意外に知られていないようです。

最後は光合成のしくみのお話。皆、熱心



CO₂吸着量計算のための幹周の測定

にノートに書いていました。

2. 落ち葉掻きして堆肥を作ろう (20分)

落葉を集め、堆肥用の大きな穴に落とし、踏み固め、米ぬか・土・水を順に入れて、何層も積み上げました。そのあと、指導者の指示に従って、カブトムシのお宿に落葉を補給しました。

初めて体験する子どもが大半で、落葉集めと袋詰め、猫車(一輪車)運搬に大はしゃぎでした。

3. 森の観察 (20分)

雑木林に多いクヌギ・コナラを覚えてもらいながら、森の中を観察しました。次に、火ばさみとごみ袋を持ってごみ集め。子どもたちは、すぐ見つけて「環境にいけないんだね」。学校での指導が良く身についているなと思いました。

4. 樹木の二酸化炭素吸着量の測定(50分)

8名ほどの5班に分かれ、森の樹木3本の幹周を測定し、葉面積×吸着指数=二酸化炭素量(kg/年)を算出して、人間の排出する炭酸ガス何人分に当たるかを計算しました。

足場の悪い所での巻尺測定や、分数計算を使った葉総面積算出などに苦労する場面も見られましたが、みんな頑張って、感想文も書き、環境調査書を完成させました。

5. 結果発表と二酸化炭素の学習

班別に発表を行いました。樹木が二酸化炭素を吸着する働きの大きさなどから、森の大切さを感じてくれたようです。改めてごみのポイ捨てをしないようになどの話があり、森をみんなで育てていこうという気持ちで、講座を終了しました。

森の樹木トピックス 会長 間野 洋

1. ヤマザクラの倒木とその処理

2月13日夜半から翌朝未明にかけて、関東地区は大雪になりました。早朝、雪景色撮影に出向いたところ、管理棟西の斜面とそば処「くぬぎ」の裏のヤマザクラ（樹齢70～80年）の2本の倒木を発見。被害は管理棟の屋根の一部の破損で済み幸いでした。

麻生区役所道路公園センターに連絡し、倒木処理は15日～17日、屋根の修理は25日終了と、早急の対応をいただきました。西斜面にもう1本ヤマザクラが残っており、倒れると管理棟を直撃する危険があるため、今年の台風時期前の処理をお願いしています。

2. クリの木の剪定

昨年末から懸案であったクリの木10本の剪定を3月5日に行いました。当日は公園緑地協会から青山課長以下5名来られ、当会会員の野牛インストラクターの講習に始まり、総勢13名でスタート。クリは高木になるので垂



直部は切り、横枝を周囲のクリの木とバランスを取って剪定。根元近くで二股、三股になって

いる木は、傷んでない幹1本にしました。今年秋の収穫は少なくなるかもとのことです。

3. 高野マキ（樹齢約20年）の移植

会員の山本さんの庭の高野マキをいただくことになりました。思い入れのある樹木で伐採処理をするのが忍びないとのことです。真言宗総本山の高野山では霊木とされています。3月5日に、鶯のお宿上の散策路沿いに移植し、費用はすべて山本さんにご負担いただきました。改めて御礼申し上げます。

麻生鳥のさえずり公園に思う

元川崎市緑政部 市民健康の森担当
川崎市緑化センター 園長 萩原 哲

この地とのかかわりは、昭和終わりに、周辺何ヶ所かで宅地開発が進み、それに反対する運動が盛んになっていた頃でした。

現在の「麻生区市民健康の森」は、宅地開発は免れたものの、学校建設予定地として長い間放置されて、密生した篠竹で覆われ地形すら分からない状態でした。

多摩緑地保全地区（都市計画決定以前）の西側には、開発のため伐採された跡地に、雑木林に不似合な痩せたトウカエデが植えられており、不自然さを感じたものです。また、多摩美こぶし町会の場所は、伐採された斜面地に枯れた松の老木が1本、抵抗のシンボルのように立っていました。そのあたりから東方を眺めると、多摩美公園の桜の向こうに、日本女子大方面の森の若芽が膨らんで霞のように見え、素晴らしい景色でした。母を連れて、家族でお花見をしたことが偲ばれます。

当時、市民健康の森の土地には、宅造地のU字溝が埋まっていた、忌々しく思ったものでしたが、先日訪れた時には、保全活動の人たちの腰掛けになり、木々は何回もの植樹のほか、小学生のどんぐりの種まきなども行なわれ、立派な雑木林の形をなしてきました。

不自然だったトウカエデは、開発から緑を守ったシンボルのように威風堂々の景観をつくっていて、感慨深いものがありました。

当時は、緑を残すのには森の木を切るなどもってのほかとの考えが主流で、その結果、山は荒れ放題でした。その山も、市民が地道な努力で手入れすることで、林内の風通しもよくなり、木々が生き生きと輝いているのを見ると、心が一足早い春の気分になりました。

しかしいっぼうで規制逃れの醜い手法の宅地開発があり、残念でなりません。それに対する保全運動は、古くからの住民も一緒に進められているとのことで、この地域で蓄積された経験と行動力があれば、必ず良い結果が得られると確信します。都市の緑が少しでも多く残り、生きとし生きるものすべてに優しい環境が保全されることと、皆様の活動がますます盛んになることをお祈りします。

編集部より 萩原さんには、1月29日「里地里山ナチュラルリスト入門講座」第10回で、緑地巡回と講演をしていただきました（1頁参照）。

多摩美の冬の星空に驚嘆

小川 誠治（オーロラ天文台）

2月5日（土）、麻生区市民健康の森で「真冬の星空を楽しむつどい」を開催しました。開始当初は雲が多くて、木星がやっと見える程度のため、室内での話に切り替えようとパワーポイントなどを準備していましたが、18時半頃から急速に雲が消えて、星空が見え始め、オリオン大星雲やすばる、M35 星団、シリウス星などたくさんの星を見ることができました。

東京から来た星のボランティアからは、「多摩美の空は噂通り暗く、また透明度も抜群で、星が良く見える。とくに真冬は最高だ」と感心していました。とりわけ木星は縞模様が数本くっきりと見え、こちら驚きの声があがりました。とはいえ、真冬であり大変寒いので、19時20分頃解散しました。約25名の市民の方が、参加されました。

なお、次回は8月6日（土）に恒例の夏の観測会を開催する予定です。また、本年はオーロラ天文台が設置されて、10年目の記念の年でもあり、9月～10月頃に天文台での観測会を予定しており、日程等が決まり次第またご案内させていただきます。

関係者の皆様のご協力に、紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

2011 里山フォーラム in 麻生 開かれる

3月5日（土）、麻生市民館で「集い語ろう！みどりと農の文化をいかすまち」をテーマに開催。各団体が活動の展示をし、交流しました。

午前中は、夏菟太鼓の演奏のあと、区内五つの小学校の「私たちが“地域”から学んでいること」の発表。西生田小5年生は、森での環境学習ほか様々な学習を重ねて「環境について考えよう」を報告。各校児童による地域の自然・農業・文化などの体験・探求のいきいきした発表を参加者は熱心に聞き、拍手を送りました。

午後は、関啓子一橋大学大学院社会学研究室教授の基調講演「地域の“場”の豊かさがはぐくむこれからの社会」。活動団体代表等によるパネルディスカッション「多様な里地里山の関わりから語り合う」が行われました。（木村記）

今後の活動予定 副会長 中谷 一郎

春は新緑と新学期の季節。森の会も原点に戻って、会員の皆様が無理なく楽しく参加でき、森・自然と触れあい、その知識をさらに深められるような活動を企画していきたいと思います、4月23日（土）は第9回通常総会です、ぜひご参加ください。

今後の活動予定は次の通りです。

4月 2日（土） 下草刈り、枯れ木の伐採処理、清掃

4月17日（日） 樹木の手入れ、畑整備

4月23日（土） 第9回通常総会

会場：区役所4階第3会議室

時間：午後3時半～4時半

5月 7日（土） 畑と樹木の手入れ、下草刈り

5月15日（日） 樹木の手入れ

6月 4日（土） 下草刈り、大麦の刈取り、清掃

6月19日（日） 樹木の手入れ、サトイモの植付け

* 5月中旬～6月に近郊の植物観察、自然植物園等を検討中です。

またこの間の補助作業日は第2、4水曜日です。10月～5月の作業時間は10時～12時です。

会員募集中です 一度見学にお出で下

さい。里山の楽しさを親子で味わってください。年会費1,000円。

麻生区のホームページで、市民健康の森を紹介、本紙のバックナンバーも見られます。
<http://www.city.kawasaki.jp/73/73tis/miryoku/sanka/mori.htm>

皆さんの投稿、感想をお寄せ下さい。

<問合せ・連絡先>

間野 洋 044-966-7233

mano-h@jcom.home.ne.jp

木村信夫 044-954-7855

kimura-yatsu@nifty.com